軟包装関連

環境配慮へ提案具体化

減プラとコストで優位性発揮

信和

信和（大阪市西淀川区、☎06・6478・1821）は農産物包材の専門企業として競争優位性に拍車を掛ける。製販体制の拡充に取り組む中、ラインアップに加えた新製品が好評だ。環境配慮の具体化に取り組むユーザーの引き合いも多く、これら製品が引き続き出荷実績を伸ばすものと期待されている。

（右）スタンドバッグ「SPT－2018」
（左）スタンドバッグ「SPT－2022」

同社は、青果物、生鮮野菜など農産物関連の包装資材全般を製造販売し全国のユーザーに提供。生産拠点は兵庫、静岡、熊本に製袋専用工場、兵庫に成形工場、ネット製品の加工場を兵庫、熊本に設置。さらに来春には関東エリアに「群馬工場」の設置を計画しており、9月から福岡市東区に営業所を開設するなど、着実に業容を拡大している。

新製品の中でも発売以来、順調に出荷実績を伸ばしているのが「SPTシリーズ」だ。小判抜きの持ち手を備えたスタンドパック袋の形状を持つ多機能袋で、基材に透明性の高いOPPフィルムを使用。果物など中身の鮮度訴求に視認性も良好で、重量物でも破袋なく手軽に持ち運べる。

最大の特徴は、「厚みを抑えて低コスト」に仕上げられている点にあり、現在OP／CPラミネートフィルム50マイクロメートル厚を使用しているが、40マイクロメートル厚のものを新たに展開。これにより「減プラ」と「コストダウン」というユーザーニーズに応え、「環境にも配慮したSPTシリーズとして新しくラインアップした」と好評を得ている。

規格サイズは、「SPT－2018」が200×180＋GZ50ミリ、「同2022」が200×220＋GZ45ミリの2アイテムを用意している。

同社では、「OPP防曇袋、真空成型容器、ネットの3つの製品を強みに〝独自の生産技術とアイデアを日々探求し、お客様の目線に沿った製品を開発・提案〟していきたい」としている。